

テーマ：公開された各種財政データを活用して、市民が自分事として行財政状況を把握できる環境整備

提案：公開された各種財政データのXViewによる把握とこの活用による市民とともに作る財政白書

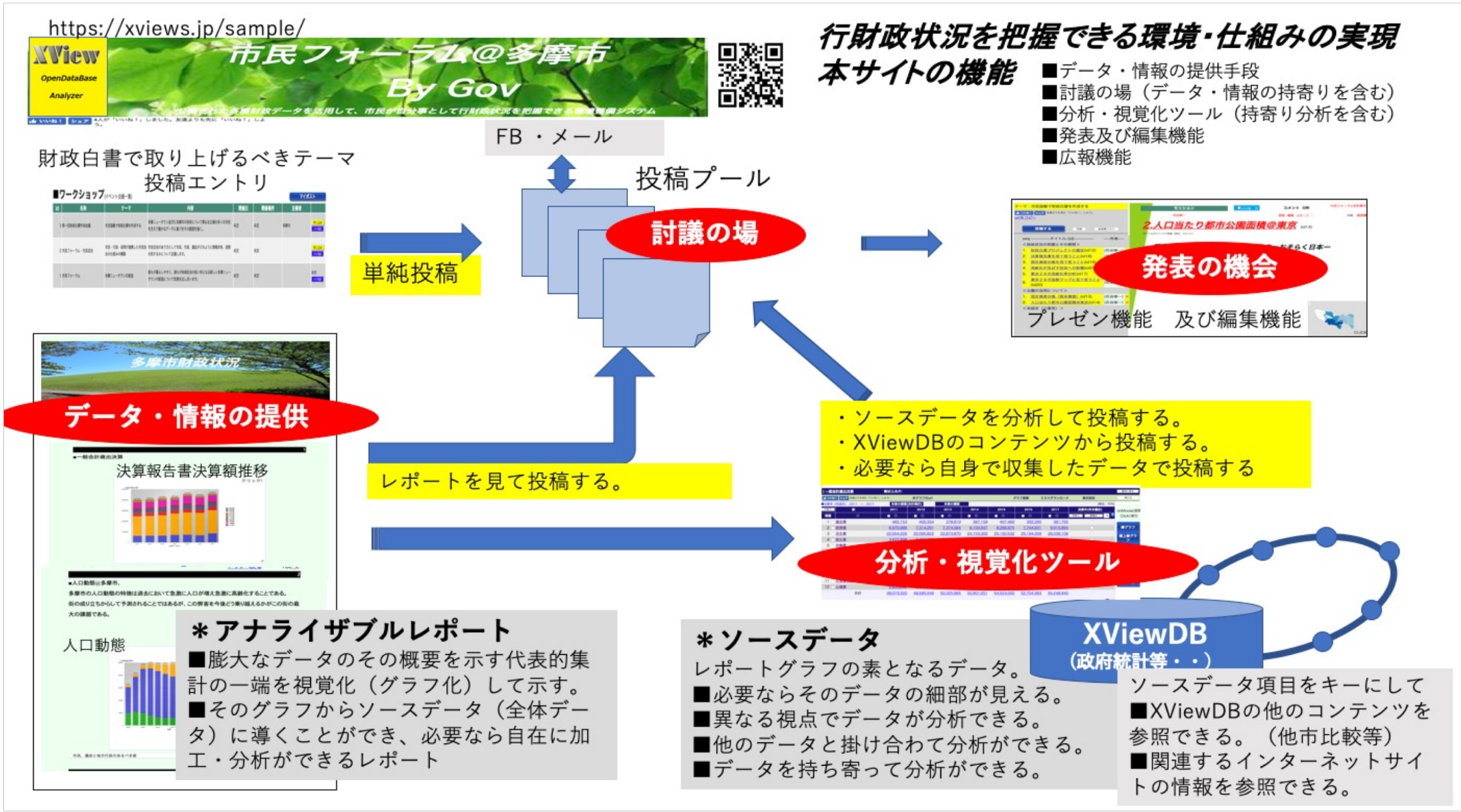
1. 市民の意見を反映した財政白書を作りましょう。
2. このための「財政白書プロジェクト」を企画しましょう。
3. この「財政白書プロジェクト」にXView機能に基づくインターネットサイト「市民フォーラム@多摩市ByGov」を提案します。

提案の趣旨・背景

- ・近年データ、情報をオープンデータとして公開する機運が高まってきた。
 - ・データをグラフや地図に高度に視覚化して表現できるツールが簡単に利用できるようになってきた。
 - ・SNS等コミュニケーションツールが普及してきた。
- しかし、これらの機能が統合された仕組みとして確立しておらず、個人や一部グループがそれぞれの興味に応じて単発的に発信しているに過ぎず、仕組みとして真に社会のためにオープンデータが利活用されているとは言い難い状況にある。

ここに、一般市民が**行財政状況を把握する環境(仕組み)**として「**データ、情報**」「**これを視覚化、分析するツール**」そして「**コミュニケーションの場、機会**」を三位一体で提供する。加えて「**財政白書**」を作るという目的を行政と市民が共有して活動する市民協働のプロジェクトを企画。

実現（サイト機能）



提案の理由

行政サイドの一方的な解釈によるデータではなくてエビデンスとしてのデータをオープンデータで提供する。これを一般市民の誰もが理解しやすいように視覚化して提供し同時に多角的な視点で分析できるようにする手段(ツール)とその分析結果や意見を持ち寄り討議する場を提供する。そして市民の関心を促すためのワークショップや発表会を企画し目的(例えば市民の意見を反映した財政白書を作るという目的)を持った市民協働プロジェクトとして実行する。

このような仕組みが機能することで、市民同士あるいは市民と行政のエビデンスベースの討議が生まれる環境となって意見合意形成が成り、討議デモクラシーが醸成される。

そしてこれがEBPM(エビデンスベースドポリシーメイキング)の基盤となるプラットフォームになると考える。



本サイトについて

近年オープンデータの機運がたかまり、政府や研究機関、自治体でも彼らの所蔵するデータをオープンデータとして機械可読なフォーマットで情報が公開されつつあります。
また一方でこれらのデータを分析、可視化するための多く便利なツールが提供され、そのデータのの一つは多様な表現ができるようになってきました。

しかしながらそれらのデータがどのように視覚的に高度に表現されたとしてもデータがデータのままで意味がありません。

その意味するところがメッセージとして多くの人に共感されるものでなくてはなりません。
オープンデータの利活用を推進する上で、この「**数字をメッセージにする**」という作業こそが最も重要な作業のはずです。

しかしこの作業は人それぞれに多様な視点（ミカタ）や意見が存在します。

同じデータでも異なる視点から評価する人がいるかもしれません。また同じデータでも異なる分析によって観方が変わるかもしれません。

さらに他のデータを掛け合わせて分析したり、そのデータの指標と他のデータの指標との相関関係から論じられることがあるかもしれません。

このように一つのデータだけに留まらず複数のデータを持ち寄って**説得力の高いシナリオを作り出すこと**が「メッセージ」の裏付けとしてオープンデータを活用することの真なる目的です。

そして一般市民にはこのメッセージやシナリオで訴えかけるしかありません。いわゆるフェイクニュースではなく、きちんとしたデータに基づく情報なのだと・・・その上で一般市民からの意見を募ります。

XViewは以下の機能により、このための一連のプロセスを支援する環境を提供します。

データバンク機能---あらゆるオープンデータをXViewDBに登録する機能

CrossAnalysis-----分析・視覚化

CrossGather-----情報・データ・分析結果の持ち寄り

CrossTalk-----レポート機能（アナライザブルレポート） 投稿機能
コミュニケーション機能

CrossOver-----編集機能、プレゼンテーション機能

XViewコミュニティ

